

中国における体育. スポーツ政策の成果と課題
- 「陽光体育運動」に着目して -

趙 倩穎 丸山 富雄

キーワード：体育・スポーツ政策、陽光体育運動、中国

A study about the achievements and challenges of the sport policy in China
- Focus on the Sunshine Sports Program -

Zhao Qianying Tomio Maruyama

Abstract

The present study aimed at evaluating the achievements and challenges of the sport policy in China such as the National Fitness Program (NFP) or the Sunshine Sports Program (SSP). The achievements and challenges have been clarified from previous research for NFP and SSP, and factual investigation for SSP.

Several investigations reported that the achievements of NFP were reflected in the increases in sports population, social sports facility, and social sports instructor. On the other hand, a variety of problems such as propaganda, enlightenment, social sports facility, and social sports instructor have been pointed out.

In the factual investigation of SSP, questionnaire and interview were conducted with the physical education teachers from all 28 junior high school in Baishan City, Jilin Province, China.

From this investigation, it was found that SSP was carried out for one or more days per week in a total of 21 schools (75%) and for every day in 19 schools (67.9%). Additionally, the effects of SSP could be listed as [got physical strength] and [began to like sports], etc. Our findings have also indicated that the problems of implementing were [field] and [funds], and the 4 reasons for not implementing were [field], [times], [funds], and [safety], respectively.

In summary, the challenges of SSP were as followed, 1) the value of SSP was neglected because the enrollment rate and study were emphasized by school or family, 2) sports expenses, fields and facilities are inadequate, 3) deficient sports events, 4) problem in safety, 5) children have no habit of exercise and low awareness of sports participation, etc.

Key Words: the sport policy, the Sunshine Sports Program, China

1. はじめに

中国では、建国以来初となる体育の法律、「中華人民共和国体育法」が1995年8月に制定された。その後、この法律に基づいて、多くの体育・スポーツ政策が公布され、実施されている。しかし様々な政策の実施には多くの課題もある。

そこで本研究では、中国の体育・スポーツ政策、具体的には「全民健身計画」や「陽光体育運動」の成果や課題という評価を研究目的とするが、「全民建身計画」に関しては先行研究、「陽光体育運動」に関しては先行研究および実態調査からその成果と課題を明らかにしたいと考える。

2. 中国の体育・スポーツ政策

1) 中国の体育・スポーツ政策の歴史的概観

1949年の建国以来今日までの中国の体育・スポーツの状況は、次の4期に分けることができる。

- ①政府に体育運動委員会が設置され、国民体育運動に目が向けられた「準備期」
- ②1958年の「体育運動十年計画」を中心とする「計画期」
- ③改革開放政策による経済的な発展と軌を一にした体育・スポーツ分野における「発展期」
- ④1995年の「中華人民共和国体育法」の成立や北京オリンピックの開催など、今日の中国体育・スポーツ界における「躍進期」

「躍進期」の1995年6月、国務院から「全民健身計画要綱」が提出され、その後第1期プロジェクト（5年間）、第2期プロジェクト（10年間）が実施された。現在は2011年からの新たに「全民健身計画(2011年－2015年)」の5年計画が始まっている。

また2006年12月、国家教育部、国家体育总局および中国共産主義青年団の連名で、「児

童、生徒、学生が毎日、一時間、外で運動を行う」という『陽光体育運動』が提唱された。2009年8月19日に、国務院が「全民健身条例」(第七十七次常務委員会会議通過)を公布し、「全民健身計画綱領」を具体的なものとした。同条例は、全民健身計画、全民健身活動、全民健身保障および対応する法的責任について規定するとともに、毎年8月8日を国家の「全民健身日」として定めている。2011年2月15日、国務院は「全民健身計画(2011年－2015年)」を発表し、今後5年間の国民の健康と運動の発展に具体的な目標と任務を定めている。

2) 「中華人民共和国体育法」の内容

「中華人民共和国体育法」(以下は中国体育法と略す)(1995年8月29日制定)は全八章五十六条で構成されたものである。第一章総規(1-9)、第二章社会体育(10-16)、第三章学校体育(17-23)、第四章競技スポーツ(24-35)、第五章体育社会团体(35-40)、第六章保障条件(41-46)、第七章法律責任(47-54)、第八章附則(55-56)から成る。ただし、47条の規定は2009年に削除された。体育事業を発展させ、人民の体力を向上させ、体育運動のレベルを高め、社会主義物質文明と精神文明を促進するため、憲法に基づきこの法律が制定された。

3) 全民健身計画の内容

2011年2月15日、中国国務院は新たに「全民健身計画(2011年－2015年)」を発表し、今後5年間の国民の健康の発展に具体的な目標と任務を定めた。2015年まで、全国の各種運動場を120万ヶ所以上にし、一人当たりの平均運動場面積を1.50平方メートルにする。全国社会体育指導員人数を100万人以上とし、国家級社会指導員を10万人以上とすることである。

4) 陽光体育運動の内容

陽光体育運動は、児童、生徒、学生が教室から出て、屋外の運動場で、毎日一時間、陽

光のもとで運動を行うというものであり、「国家青少年体力健康標準」(2007年)を基礎としている。教育部および国家体育総局は陽光体育評価を実施し、制度を監督する。

陽光体育運動の対象は小、中、高、大学すべての学校の青少年で、その年齢における運動種目は科学的根拠に基づいて行われる。各学校はあまり競技性のない種目で、それぞれの学校が特色を持った種目を行う。

陽光体育運動を通じて3年間で85%以上の学校で「国家青少年体力健康標準」を実施すること、85%以上の子供たちが陽光体育運動に参加すること、また85%以上の子供たちが青少年体力健康標準に合格すること、という計画が立てられた。そして二種目以上の運動技能を習得すること、体育訓練習慣を身に着けること、体力健康レベルを向上させることも目標とされた。

3. 全民健身運動の成果と課題 (先行研究のレビューから)

1) 全民健身運動の成果

- (1) 体育人口(週3回以上、1回30分以上、中程度以上の運動強度の運動実施者)が増えた：1996年(15.5%) 2000年(18.3%) 2007年(28.2%)
- (2) 社会体育施設が増えた：1995年(615554ヶ所) 2003年(850080ヶ所)
- (3) 社会体育指導員が増えた：1996年(6万人) 2000年(18万人) 2010年(65万人)

2) 全民健身運動の課題

- (1) 「全民健身計画要綱」の宣伝・啓蒙
「全民健身計画要綱」は1995年に発表されたが、その2年後の1997年の時点で、国民の5%がこの「要綱」を理解しているだけで、30%が「少し知っている」、65%は「聞いたことがない」という調査結果であった。
- (2) 社会体育施設
中国の運動場と体育館は国有のものがほ

とんどであるが、その分布は都市部79.8%に対し、農村部は20.2%であり、都市部と農村部に大きな格差がある。また、大衆スポーツに使用されるのは10%だけである。

(3) 国民の体育関連消費情況

1996年、中国国民の家族の年間体育関連消費は、100元以内が58.3%、100元から200元が27.8%、201元以上が13.9%となっている。国民の体育消費レベルは非常に低い状況である。

(4) 体育活動非参加人数

中国で体育活動に参加していない人々は、都市部では37%で、農村部では63%となっており、都市部と農村部との格差が大きい。

(5) 社会体育指導員

社会体育指導員の指導上の問題として様々な問題が指摘されているが、「経費が足りない」が最も多く70.3%の指導員が指摘している。「場所、施設が足りない」「移動手段がない」「専門知識が足りない」なども多く指摘された。

4. 陽光体育運動の成果と課題 —先行研究のレビューから—

1) 陽光体育運動の成果

先行研究からは、陽光体育運動は我が国の青少年の体力健康状態が下がっている問題を解決し、青少年に対し興味、情感、意志、性格などに影響する。例えば、青少年に体育への動機付けと興味を促進させ、積極的な情感や良い性格を形成する。また、意志を強くし目の前の困難を克服させる、などの成果が指摘されている。

2) 陽光体育運動の課題

- (1) 子供たちは陽光体育運動を知ってはいるが、その内容、目的などの詳しい情報は分かっていないこと。すなわちその意義を含めた子供たちへの啓蒙が必要である。

- (2) 現在、中国では受験教育が過熱している。学校は進学率を最も重視し、体育科の授業は文化的な授業へ振り替えることも多い。子供たちの体力・健康づくりのため、学校、家庭において、体育や陽光体育運動の価値を再認識し、その価値を向上させる必要がある。
- (3) 学校の活動場所や体育施設、体育用具の整備の問題。そのためにも体育経費を上げる必要がある。この状況は都市部より農村部が深刻である。
- (4) 子供たちに怪我等が起こると体育教師が責任を負うという風潮がある。保険を含め、学校が安全管理を徹底し、教師からこの心配を取り除くことも必要である。
- (5) 体育教師のレベルが低いことが指摘されている。子供や体育に対する考え方、科学的知識、指導方法などを向上させる必要がある。
- (6) 子供たち自身の問題もある。学校と家族のプレッシャーから、ほとんどの時間を勉強に費やし、塾にも通う。少ない自由時間は電子ゲームやテレビを見ることなどに費やされる。学校、家庭、地域社会が、子供たちの健康づくりのための環境づくりに協力することが必要である。そして子供たちの体育・健康意識を高める必要がある。
- (7) 最後に、陽光体育運動はその提唱から時間が経つにつれて、熱気が冷め、実施しなくなっている状態となっている。今後、息の長い、継続した取り組みが必要である。

5. 陽光体育運動の背景と実態

1) 調査方法

(1) 中学生の生活実態調査

陽光体育運動が提唱された背景には、青少年の子供たちの体力不足や健康不良がある。現在の子供たちの生活は、異常ともいえ

る過熱した受験競争に伴い、学校での勉強漬けの毎日で、自由時間に運動やスポーツをすることがほとんどない。

そこで典型的な中学生の1週間の生活実態を、生活時間から明らかにすることにした。

(ア)調査時期、対象者

2011年6月10日から1週間。吉林省白山市の中学生各学年1名の計3名。

(イ)研究方法

1週間の生活時間を1日ごとに、その活動内容、時間を記載してもらった。

(2) 白山市中学校の陽光体育運動の実態調査

(ア)調査時期および調査対象校

2011年5月、吉林省白山市全28中学校

(イ)調査方法

体育教師に対し、陽光体育運動の実施等に関するアンケートを依頼した。同時に、詳細についてインタビューを行った。

(ウ)調査内容

- ・陽光体育運動の実施状況
- ・実施の効果
- ・実施する上での問題
- ・非実施の理由

(3) 白山市および調査対象校の概要

白山市は中国吉林省東南部に位置し、その中の小白山市は、渾江区、江源区から構成され、長白山の第一市といわれている。白山市の政府は渾江区にあり、渾江区の面積は1388平方キロ、人口は33万人である。江源区は白山市の西部に位置し、面積は1348平方キロ、人口は27万人である。

今回の調査対象中学校は、小白山市内の全28校である。28校の規模は以下のとおりである。

表1) 28校の規模

学級数	学校数	生徒数	学校数
～9	12	～500	12
10～20	10	501～1000	8
21～30	4	1001～1500	7
30～	2	1501～2000	1

2) 中学生の生活実態

(1) 中学生の生活実態のまとめ

中学生の生活実態について、上記3名の生活時間から概観するすると、平日および日曜日は、概ね次のような生活を送っている。

表2)中学生の生活時間

朝 5 時 30 分頃、起床
朝食後、6 時 15 分頃登校
6 時 30 分から、朝自習
7 時 30 分から 11 時 20 分まで授業
11 時 20 分から 12 時 30 分まで昼休み
12 時 30 分から 13 時 30 分まで昼自習
13 時 35 分から 16 時 45 分まで授業
16 時 50 分から 17 時 30 分まで小自習
17 時 30 分から 18 時 30 分まで夕食
夕食後、18 時 30 分から 20 時 30 分まで夜自習
21 時前に帰宅、22 時頃、就寝

		月曜から金曜まで	日曜日
学校	授業時間	620分	570分
	休憩時間	220分	240分
	睡眠時間	450分	480分
学校以外	自由時間	150分	150分

中学1年、2年、3年生の生活実態は、毎日ほとんど同じ状況である。1、2年生は土曜日は学校は休みであるが、日曜日でも学校での授業がある。3年生は土曜日でも授業があるという状況である。

また表2)を見ると平日は14時間、日曜日は13時間半、学校にいる。睡眠時間を除いて、自由時間は宿題、登下校、家での片付けなどの時間を含めて2時間30分程度である。現在、中学生は家庭よりも学校での時間が多く、中学生にとっては、「学校」が第一の居場所となっているといえる。

中学生の毎日の活動範囲、すなわち生活空間は明らかに決まっている。家のほかに学校、スーパーなどに行くだけである。授業と授業の間は教室で寝る時間が多く見られ

る。学校は朝早いため、多くの中学生は朝食を食べないで学校に行く。朝自習が終わり、スーパーで朝食を買って食べる状況である。

先行研究の指摘するとおり、今の中国の中学生にはほとんど自由時間がないこと、そして外遊びや運動・スポーツを実施していないことが分かった。

3) 白山市中学校の陽光体育運動の実態

(1) 実施の有無

表3)実施状況

	度数	パーセント
1 年中、ほぼ毎日	10	35.7
冬場を除き、ほぼ毎日	9	32.1
週に2、3日	1	3.6
週に1日程度	1	3.6
月に1、2日	2	7.1
年に数回	3	10.7
ほとんど行っていない	2	7.1
合計	28	100

「陽光体育運動」の実施状況は、国の提唱する「1年中、ほぼ毎日」実施している学校は10校(35.7%)に止まり、「冬場を除き、ほぼ毎日」(9校、32.1%)を加えても19校で、調査対象校の三分の二であった。「週に1日程度」以上は、21校75%で、四分の三の学校は「陽光体育運動」をある程度実施しているといえる。

しかしその他の7校、四分の一の学校では、現在まで陽光体育運動はほとんど実施していないという状況であった。

(2) 実施の効果

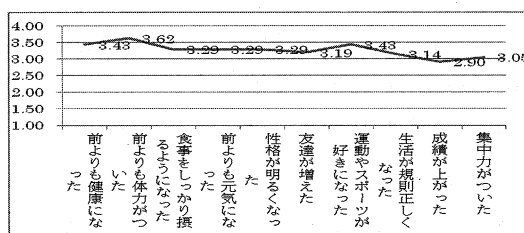


図1) 実施の効果

実施の効果を、「とてもそう思う」を4点、「そう思う」を3点、「あまりそう思わない」を2点、「そう思わない」を1点と得点化し、平均値で比較を行った。

「前よりも体力がついた」(3.62)、「前よりも健康になった」と「運動やスポーツが好きになった」(3.43)が高く、以下「食事をしっかり摂るようになった」、「前よりも元気になった」、「性格が明るくなった」(3.29)などの順となっている。

(3) 実施する上での問題(複数回答)

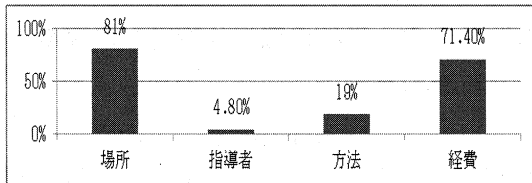


図2) 実施する上での問題

「陽光体育運動」を行っている学校に「実施する上での問題」を聞いたところ、「場所の問題」(81%)、「経費の問題」(71.4%)を挙げた学校が非常に多かった。「方法の問題」(19%)や「指導者の問題」(4.8%)はあまり指摘されなかった。

(4) 非実施の理由(複数回答)

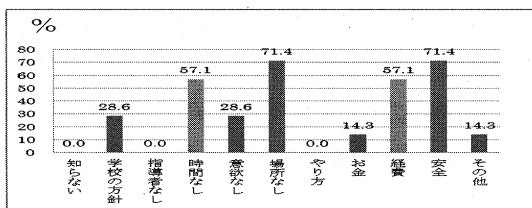


図3) 非実施の理由

陽光体育運動を行っていないと答えた学校、7校に実施しない理由を聞いたところ、「場所がない」と「安全面で心配」を挙げた学校が5校(71.4%)と高く、「時間がない」と「経費がない」を挙げた学校が4校(57.1%)であった。「学校の方針」で実施していない学校も2校あった。

4) まとめ

調査の目的は、経済的にあまり発達していない中国東北地方の中小都市である吉林省白山市全28中学校を事例に、陽光体育運動実施の実態を明らかにすることであった。

今回の調査から、21校、75%の学校で週1

日以上「陽光体育運動」を行っていることが分かった。しかし陽光体育運動は、毎日行うことが求められており、「毎日」(冬場は行っていない学校も含め)行っている学校は19校、三分の二であった。

陽光体育運動を実施している学校では、その効果ははっきりと見て取れる。例えば「前よりも体力がついた」や「運動やスポーツが好きになった」などが指摘された。しかし、実施している学校においても、実施する上での問題があった。それは場所がないことや経費がないことなどの外的条件に制約されていると考えられる。二日間にわたり、ある中学校で観察したが、体育の授業で1年生、2年生は自由に遊んでいたり、男子はバスケットボール、女子は散歩をしていた。しかし、多くの生徒はすぐに教室に帰って勉強したり、寝たり、あるいはお喋りをしていた。3年生は体育の授業はなくなっていた。しかしもうすぐ受験に必要な体育の試験があるので、ある時間に試験の種目である800メートル、立ち幅跳び、砲丸投げを練習していることが分かった。

調査結果では、7校25%で「陽光体育運動」を行っていないことがわかった。実施していない理由については、「場所がない」と「安全面の心配」が第一位となっているが、「時間がない」と「経費がない」の二つの項目も高く指摘された。これらの項目は陽光体育運動を行う上での基礎的な条件である。体育教師とのインタビューから、ある学校では、校庭が整備されていないため運動をすることが難しいと話していた。そして、経費が少なく体育用具も満足にそろえることができない現状である。ある学校での体育用具は、リレーのバトン20本、縄跳びロープ20本、砲丸7個、サッカーボール3個、バレーボール2個、バスケットボール2個だけであり、体育の授業を行うのも大変になっている。

また現在、中国では経済の発展とともに、競争社会となり、良い就職のために受験競争が激化している。学校では進学率を最も重視しており、家族も自分の子どもには余計なことは何もせず、一生懸命、勉強してほしいという希望がある。このことが「学校の方針」として陽光体育運動を実施していないことにも表れている。

さらに多くの体育教師は安全面の問題を心配している。子どもが運動時に怪我をしてしまうと体育教師の責任となるので、簡単な運動種目だけを行っているようである。例えば跳馬や鉄棒、平行棒のような種目は行っていない。

今後、陽光体育運動が政策どおり展開され、子供たちの心身の健康づくりに資するためには、国や省、市、県などによって、学校への経費の増加や学校の体育施設の整備充実が望まれる。それは陽光体育運動がうまく実施されるために最も重要なものであろう。さらに、青少年が参加し楽しめる運動会、体育活動などの開催が挙げられる。このような体育活動が開催されることによって陽光体育運動も促進される。今回の調査結果からは、陽光体育運動は三分の二の学校で行われているに過ぎなかった。様々な問題が解決されることが期待されている。

本研究では、全民健身運動と陽光体育運動を中心に、中国の体育・スポーツ政策の成果と課題を探った。北京オリンピック後、中国も「スポーツ大国」から「スポーツ強国」になることが大々的に提唱されている。すなわち競技スポーツにおける競技力向上だけではなく、大衆スポーツの振興やスポーツ文化の浸透である。そのためにも、全民健身運動などのスポーツ政策の全国での展開が必要である。本研究結果からは、宣伝・啓蒙、予算、体育・スポーツ施設の不足など、様々な課題が明らかになった。さらに子供を含め、人々の体育やスポーツに対する価

値や評価を高め、積極的に参加するための方策が必要である。

中国は、広大な国土と13億以上の人口、さらに56もの多民族国家である。経済発展も都市と農村で大きな格差がある。体育・スポーツ政策の浸透には、今後も永続的で着実な取り組みが必要と思われる。

6. 提言

ここでは、今後の中国における陽光体育運動の実施のための提言として、白山市の事例から次の点を指摘する。

まず、第一として陽光体育運動に対し、今以上の宣伝や啓蒙が必要である、白山市の学校では、調査対象校の三分の二の学校は陽光体育運動を実施しているが、陽光体育運動の意義や意識を高める必要があると考えられる。そのためにも啓蒙や宣伝を強化することが必要である。特に、経済が発達していない地区と農村部ではさらに必要である。

二つ目は、陽光体育運動の経費を増加すべきであろう。現在、中国の陽光体育運動の実施のために最も強調されている問題として、体育経費不足が指摘されている。経費の不足によって、現状では、学校の体育施設を増加させたり改善させたりすることができない。体育施設への投資を上げる必要がある。

三つ目は、学校と家族とも陽光体育運動をもっと重視することが必要である。現在、中国は受験競争社会となった。進学率やよい大学への進学という考え方を、健康第一の考え方に代える、子供たちから学習のプレッシャーを軽減することが必要である。

7. 今後の課題

本研究では、中国の体育・スポーツ政策の成果と課題に関して研究したが、時間の関係から陽光体育運動だけの実態調査とな

ってしまった。しかも調査対象が吉林省白山市の中学校だけとなってしまった。今後、さらに地域を広げて調査を行う必要がある。

また全民健身運動に関して先行研究を収集したが、その先行研究は一部に限られてしまった。中国は広く人口も多く全国調査は無理であるが、今後、全民健身運動に関する各地域の調査研究が望まれる。

さらに今後の中国のスポーツの発展には、中国の体育・スポーツ政策をより詳しく研究・把握し、日本の体育・スポーツ政策と比較する必要がある。望ましいスポーツ政策のために、日中の体育・スポーツ政策を比較研究する予定である。

参考文献

- 1) 中央人民政府委员会「中国人民政治协商会议共同纲领」(1949年)
- 2) 国家体育总局「中华全国体育总会成立大会」(1952年)
- 3) 中央体育运动委员会党组「中国劳卫制」(1953年)
- 4) 中共中央「关于加强人民体育运动工作的报告」(1954年)
- 5) 中共中央批转国家体委党组「关于体育运动十年规划的报告」(1958年)
- 6) 中共中央国务院「关于进一步开创体育新局面的请示」(1983年)
- 7) 国家体委「社会体育指导员技术等级制度」(1993年)
- 8) 张发强(1999年)「中国社会体育现状调查报告」万方数据体育科学第一期 NO1
- 9) 国家体委「关于贯彻《全民健身计划纲要》实施全民健身一二一工程的意见」(1995年)
- 10) 全国人民代表大会常务委员会「中华人民共和国体育法」(2005年) 中国网
- 11) 中共中央国务院「全民健身计划纲要」(2005年)
- 12) 国家体育总局「《全民健身计划纲要》2001-2005年实施计划」(2005年)
- 13) 国家体育总局「全民健身计划第一期工程第二阶段工作方案」(2005年)
- 14) 国家体育总局「全民健身计划第一期工程第三阶段工作方案」(2005年)
- 15) 中共中央国务院「全民健身条例」(2009年)
- 16) 国家体育总局「“十一五”群众体育事业发展规划」(2006年)
- 17) 国家体育总局「《全民健身计划纲要》第二期工程第二阶段实施计划通知」(2006)
- 18) 中共中央国务院「加强青少年体育增强青少年体质的意见」(2007年)
- 19) 国家体育总局「中国群众体育现状调查报告」(2002年)
- 20) 国家体育总局「“十一五”群众体育发展研究」(2007年)
- 21) 国家体育总局「刘鹏局长在2011年全国群众体育工作会议上的讲话」(2011年)
- 22) 中共中央国务院「全民健身计划(2011-2015年)的通知」(2011年)
- 23) 国家体委「《城市公共体育运动设施用地定额指标暂行规定》的说明」(2008年)
- 24) 中共中央国务院「《全民健身计划纲要》第二期工程(2001-2010)规划」(2010年)
- 25) 国家体育总局「第三个“全民健身日”在即主题为每天锻炼一小时」(2011年)
- 26) 国家体育总局「国民体质总体水平提高超重与肥胖率持续增长身体机能有所回升」(2011年)
- 27) 国家体委「国家体育鍛鍊標準」(1982年)
- 28) 国家体委「国家体育鍛鍊標準施行方法」(1990年)
- 29) 馬柏湘(2008年)「全民の健身意識の現状と思考」, 中国论文下载中心
- 30) 李然 張彦峰 張銘銘等12名(2010年)「我国で体育鍛鍊に参加しない人々の特徴の研究」中国体育科技(第46卷)第1期

- 31) 巖米金 (2009 年)「今日から 8 月 8 日は
全民健身日になった」
- 32) 戚白曇 (2009 年)「我国での全民健身運
動に関する現状と対策の研究」
- 33) 谷紅紅 陳玉忠 孟凡濤 (2008 年)「改革
開放以来の我国での学校体育の考え方の
研究」, 体育文化導刊
- 34) 馮客 (2011 年)「毛沢東の大飢饉—1958-
1962 年の中国災害史」連合朝報
- 35) 郭世彬 (2009 年)「長沙市小中学生の陽
光体育活動参加に関する現状調査及び対
策の研究」, 長沙鉄道学院学報, 第 10 巻第
1 期,
- 36) 汪明旗, 宋京佳, 黄文敬 (2008 年)「鷹
淵市小中学生の陽光体育運動の現状調査
研究」, 教育探索, 総第 210 期
- 37) 王懷虎, 楊芳, 魏玉琴 (2009 年)「甘肅
省小中学校での陽光体育の現状調査及び
対策の研究」, 甘肅連合大学学報, 第 23 巻
第 1 期
- 38) 高胜光 (2009 年)「中学生の陽光体育運
動の個人的自覚とその対策研究」—江蘇
省宿遷市事例一, 体育世界・学術
- 39) 蔣海龙 (2009 年)「蘇州市中学校の陽光
体育運動の現状調査の研究」, 中学学校体
育
- 40) 俞世军, 陳き杭 (2008 年)「杭州市中学
生の陽光体育運動状況の調査」, 浙江体育
科学, 第 30 巻第 1 期
- 41) 姚志強, 陳穎瑜 (2009 年)「中学生の陽
光体育運動について—增城市の事例—」
甘肅科技
- 42) 劉子強, 蘆春根 (2008 年)「南昌市中学
校での陽光体育運動の現状及び対策」, 江
西教育学院学報, 第 29 巻第 3 期
- 43) 陈学东, 張虎, 曾四清 (2010 年)「陝西
省大学での陽光体育運動の実施の現状及
び対策分析」, 太原都市職業技術学院学
報, 2010 年第 6 期 (総第 107 期)
- 44) 彭国龙 (2011 年)「大学での陽光体育運
動の発展戦術が持続するための考察—重
慶市大学—」, 科教導刊, 2011 年 2 月, 第
4 期
- 45) 徐利峰 (2009 年)「大学で陽光体育活動
を行うための影響要因及び対策研究」, 科
技情報, 2009 年, 第 27 期
- 46) 李真 (2010 年)「我国の陽光体育運動研
究の進展の分析」, 総述報告, 第 18 巻第 5
期
- 47) 冯欣欣, 王晓春, 荆俊昌, 鄒英「『陽光
体育運動』政策システムに存在する問題
を論ずる」, 瀋陽教育学院学報 第 12 巻
第 2 期
- 48) 何凤英, 趙惠, 程丹 (2009 年)「全国の
陽光体育運動に関する研究の要約」, 科
技情報, 第 35 期
- 49) 魏玉琴, 朱傑, 王軍(2009 年)「陽光体育
運動を実施するための影響要因の分析及
び対策研究」, 教学・探索, 第 17 巻第 12
期
- 50) 郑君亚 (2009 年)「農村の学校での陽光
体育運動の対策と分析」, 寧波市鄞州区樟
村中学
- 51) 陳立春 (2009 年)「体育自体の建設を強
化し、陽光体育プロジェクトを推し進め
る」, 時代教育, 第 3 巻
- 52) 張仕 (2009 年)「陽光体育運動を実施す
る上の問題と対策」, 体育世界・学術
- 53) 黄利霞 (2010 年)「陽光体育運動が果た
す青少年の非知能要素への影響」, 体育教
育, 第 3 期
- 54) 中国論文下载中心 (2005 年)「全民健身
の実施問題と改革のための基本的手段」
- 55) 門蘭 (2005 年)「1949 年以降の中国の体
育政策の発展」, 中国科技情報 第 13